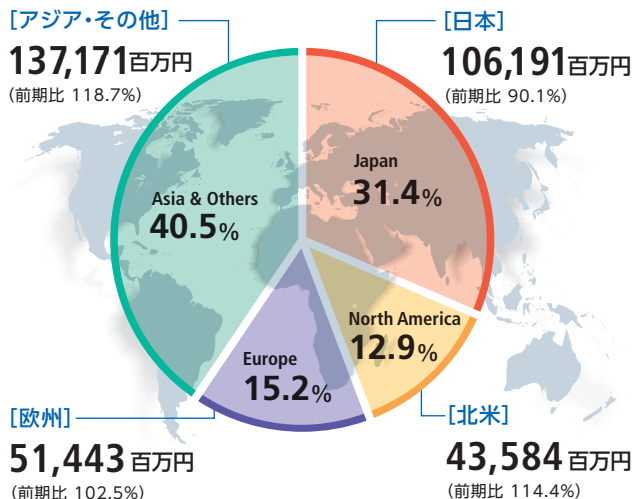


業績ハイライト

科目	連結会計年度	
	2014年度	2013年度
経営成績		
売上高 (百万円)	338,389	321,761
営業利益 (百万円)	36,763	26,576
経常利益 (百万円)	37,857	25,743
当期純利益 (百万円)	26,400	15,989
1株当たり当期純利益(円)	100.08	59.47

売上高の地域別構成比



売上高のセグメント別構成比

システム

ハンディターミナル、電子レジスター、
オフィス・コンピューター、
ページプリンタ、
データプロジェクター等

《売上高》

40,848 百万円

(前年比 90.2%)

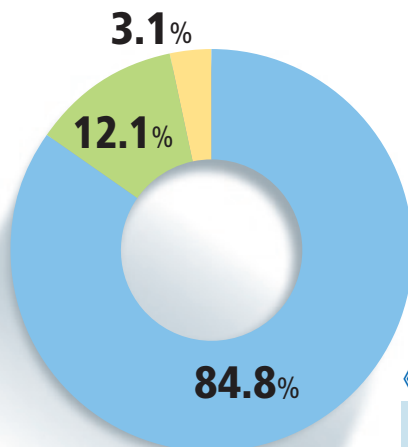
その他

金型等

《売上高》

10,428 百万円

(前年比 86.5%)



コンシューマ

ウォッチ、クロック、電子辞書、電卓、
電子文具、電子楽器、デジタルカメラ等

《売上高》

287,113 百万円

(前年比 108.6%)

《合計》

338,389 百万円

(前年比 105.2%)

当期(2014年度)の業績概要

当期における内外経済は、国内や米国では堅調に推移した一方、新興国や欧州の減速懸念や急激な為替変動などもあり、先行き不透明な状況で推移しました。

この環境下、当期の売上高は、前期比5.2%増の3,383億円となりました。セグメント別内訳は、コンシューマが2,871億円、システムが408億円、その他が104億円となりました。

時計は世界初のGPSハイブリッド電波ソーラーを搭載した高価格帯の「G-SHOCK」[OCEANUS]の売上が国内外で好調に推移し大幅な増収となりました。また、Bluetooth®でスマートフォンと連携する「EDIFICE」の売上也好調に推移しました。この結果、時計は過去最高の売上を達成しました。電卓はローカライズ製品の拡大により売

上を拡大しました。

損益につきましては、コンシューマが471億円の営業利益となりました。時計は各ブランドを核とした製品ミックスの改善により利益を拡大し、過去最高の利益を達成しました。デジタルカメラは独自のハイエンド製品の拡大、電卓は高付加価値製品の投入により利益を拡大しました。システムは56億円の営業損失、その他は2億円の営業損失となりました。

この結果、調整後の連結合計として営業利益は367億円(前期比38.3%増)、経常利益は378億円(前期比47.1%増)となりました。当期純利益は264億円(前期比65.1%増)、1株当たり当期純利益(EPS)は100円8銭(前期比68.3%増)となり、過去最高となりました。

今後(2015年度)の業績見通し

国内景気は引き続き底堅く推移するものと予想されます。このような中で、当社は独自技術を生かした製品の積極的な世界展開を推進し、業績の大幅向上を目指します。主な施策は以下の通りです。

- ① 時計事業は、GPSと電波のハイブリッドモデルやスマートフォン連携Bluetooth®モデルなどの最新技術を搭載したウォッチの拡大により、高付加価値化を図ります。また、「G-SHOCK」をはじめとした6ブランドを強化し、さらなる事業拡大と高収益性の維持を図ります。
- ② 電卓事業は、検算機能や音声機能などを備えた電卓や高精細な母国語表示の関数電卓などのローカライズ製品の

拡大により、事業拡大と高収益性の維持を図ります。

- ③ システム事業は、価格競争力のある画期的なプロジェクターの新製品の投入により、事業拡大と収益性改善を図ります。
- ④ 全事業で海外エリアの販売強化を図ります。

2015年度業績見通し(連結)

売上高	3,700億円	(前期比 109.3%)
営業利益	500億円	(前期比 136.0%)
経常利益	480億円	(前期比 126.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	330億円	(前期比 125.0%)